

図書室特別展示

ヒロシマゆかりの作家達



中原中也 (1907～1937)

詩人

2歳から5歳の幼児期、父の任地の広島に在り、広島女学校(現・広島女学院)附属幼稚園へ通っている。



井伏鱒二 (1898～1993)

小説家

広島県福山市出身

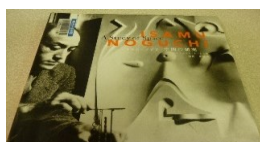


鈴木三重吉 (1882～1936)



丹下健三 (1913～2005) 建築家

大阪府に生まれる。東京帝国大建築学科卒。旧制広島高等学校出身で、戦後の広島平和公園の競技設計などを手がけて、その地位を確立する。香川県庁舎、国立屋内総合競技場、東京都庁などをはじめ、ユーゴスラビアのスコピエ再建都市計画、イポーロニヤの都市計画なども手がける。昭和55年(1980年)文化勲章受賞。



イサム ノグチ (1904～1988) 彫刻家

米国ロサンゼルスに生まれる。野口米次郎(詩人)の子。子供時代を日本で過ごす。のちアメリカに帰り、彫刻家となることとし、奨学金を得てパリでブランクシーに師事する。その後中国、日本で書、造園、陶芸を学び、以後彫刻にとどまらない庭園制作など幅広い分野で活躍する。平和記念公園を東西につなぐ平和大橋と西平和大橋は、彼のデザインによるものである。



大江健三郎 (1935～) 小説家

愛媛県喜多郡大瀬村(喜多郡内子町)に生まれる。東京大学仏文科卒。大学在学中の昭和33年(1958年)「飼育」で第39回芥川賞受賞。新しい文学の担い手となる。国際的な作家、評論家としても幅広く活躍し、平成6年(1994年)には川端康成に続く日本人2人目のノーベル文学賞を受賞する。原爆、平和等の社会問題に対する関わりも深く、「ヒロシマ・ノート」「核時代の創造力」などもある。

※作家の経歴は、広島市立図書館ホームページ等を参照しています。